

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470500667		
法人名	特定非営利活動法人おもしろい介護の会つくしんぼ		
事業所名	グループホームつくしんぼ		
所在地	津市片田志袋町300番地181		
自己評価作成日		評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JizyosyoCd=2470500667-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JizyosyoCd=2470500667-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 5 年 2 月 22 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームつくしんぼは、令和3年12月にリニューアルオープンしたグループホームです。建物は、一般住宅を改装したもので、グループホームがある津市志袋団地内の住宅の一戸として建てられています。入居者の中には、志袋団地内の自宅で独り暮らしをされていた方もあり、散歩に出かけた際に自宅に立ち寄り、休憩をすることもあります。グループホームつくしんぼは、これからも志袋団地の一世帯として、団地内の皆様と親しい関係を持ちながら、歩んでいきたいと考えております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

令和3年12月にリフォームが完成し、事業が再開になり利用者・職員も一部入れ替わったが、1年2ヶ月が過ぎ、何とか落ち着きを取り戻してきた。訪問介護・デイサービスを共有する事業所は、開設22年目となるが定員6名の少人数利用者で家族的な雰囲気が漂っている。事業所は団地内の一角に設立されており、利用者の一部は地元から入居し、理事長の自宅も隣にあり、近隣には馴染みの方も多く地域との繋がりを大切にしている。利用者の日頃の気持ち、思いを察しその人がその人らしく生活していくように、今までの生活リズムを大切に支援を続けている事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当施設の理念は、毎朝、申し送りの時間に唱和している。	法人理念をそのまま事業所の理念としており、玄関に掲示して内外にその姿勢を示している。職員は毎月のミーティングで唱和しながら理念を振り返る意見交換をして、確認・共有して実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当施設は、一般住宅を改装したもので、津市志袋団地内の住宅の一戸として建てられている。隣近所とは、団地の一員としてお付き合いさせて頂いている。	コロナ禍の影響で自治会行事はほとんど中止になった。それで事業所だよりを地域の回覧版に入れてもらい、閲覧して頂いている。散歩の際に地域の方と挨拶を交わして、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者の中に志袋団地内の自宅で独り暮らしをしていた方があり、散歩に出かけた際、馴染みの人との挨拶、自宅に立ち寄り休憩することもある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設運営が落ち着いた昨年9月から運営推進会議を開催出来るようになった。但し、コロナ禍であるため、文書にて、運営推進会議を実施している。	コロナ禍で会議は中止したが、事業所内で偶数月に会議を開き、行事・利用者状況報告を記入している。自治会長・民生委員・市担当者・地域包括支援センター等に意見記載の依頼書を付けて送付して、意見・提案あれば活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の文書の発送、介護保険更新の手続き等の際、情報交換を行っている。	日常的な介護の相談・報告・介護認定書類・運営推進会議録・生活保護利用者の支援関係等の届けに訪問したり、困った事・相談事等あれば電話で連絡を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出来ているが、職員がきちんと理解したうえで実践できているかは、分からないところもある。そのため、問題が発生時は、事例検討を行い、身体拘束をしないケアの実践につなげている。	玄関には身体拘束に関する文書掲示してある。一昨年の改修工事で以前の資料が多く散逸し、身体拘束防止の指針、会議録が無い。職員研修も今のところ実施できてなく、現在は虐待防止を兼ねて検討中である。	身体拘束防止の指針を作成し年4回身体拘束適正化委員会を開催するのは重要課題とされており、関連しその会議録を作成し、職員研修も定期的の実施される事を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月一回のミーティングで、実際の介護を振り返り、虐待や身体拘束について検討をしている。問題発生時は、その都度話し合い、相手を思いやるケアの実践につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	出来ているが、職員がきちんと理解したうえで実践できているかはまだ分からないところもある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の締結、重要事項の説明は、面談にて行い、利用者家族、施設側双方が納得した上でやっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族等の要望は、月に一度のミーティングで話し合い、次からの実践につなげている。	利用者からは夜勤者、入浴支援時の会話等で聞き、家族意見は面会時や毎月送付する支援経過、状況報告書送付後のTEL連絡等で聞いている。家族からは受診支援は事業所で頼みたい、延命処置はしないで見守りで良いとの意見があり、実践している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	新体制になり一年がたった。問題が起これば職員同士で話し合い、問題解決にあたっている。	月1回のミーティング、毎日の申し送り時に意見が出たり、日常的に絶えず職員同士で話し合ったり、ラインを利用して課題の把握に努めている。法人合同の行事を、事業所独自でやってはどうか、と意見が出て取り組んだ。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人手不足が解消されず、現場スタッフの努力で、業務が成り立っている。法人としては、感謝しかありません。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて、法人が運営しているもう一つのグループホームとの交流・合同研修は行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員の絶対数が足りないため、法人が運営する一つのグループホームとの事例検討・研修は行っているが、外部の研修等への参加は出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の気持ちを理解し、要望等に応えられるよう努力・工夫している現場の姿はよく感じている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の気持ちを理解し、要望等に応えられるよう努力・工夫している現場の姿はよく感じている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設の説明段階で、他の施設、医療機関が入居希望者にとってははるかに有益である場合は、その都度ふさわしい施設・医療機関を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室の片付け、施設周りの草取りなど、利用者様と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在、コロナ禍であり、制限しているが、面会、外出などは、可能な限り協力して頂くよう、ご家族様をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	グループホームがある志袋団地内の自宅で、独り暮らしをしていた入居者もあり、散歩の際に自宅に立ち寄り、休憩をすることもある。	散歩時は近隣や友人と話をしたり、自宅に立ち寄り、以前勤めていた職場の前を通ったりしている。電話を友人・知人にかけていたりする方もいる。家族と共に墓参りする方もいる。また事業所の納涼祭には昔懐かしい菓子を配布した。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションの時間に共同作業をする、利用者同士が協力して食事の準備等をして頂くなどの配慮をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に長期入院し、当施設を退所された利用者に対して、退院後の生活等について家族と一緒に検討し、次のステップにつなげている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月に一度のミーティングでは、利用者全員のカンファレンスを行い、現状把握、今後の課題を検討している。	支援中の利用者との会話、入浴時、夜勤時の1対1の会話等の中で気持の把握に努めている。聞き取った思いや意向は申し送りノートに記入し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	他愛のないおしゃべりから得た情報でも、職員同士で共有し、利用者の理解につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月に一度のミーティングでは、利用者全員のカンファレンスを行い、現状把握、今後の課題を検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成は、現場から教えられた情報を元に計画作成担当者が原案を作り、現場に返して検討・修正してもらうという手順で作成している。	モニタリングは職員が毎月実施している。ケアマネ参加により全職員のカンファレンスで、3ヶ月毎にモニタリングを見直し、ケアマネが6ヶ月毎に課題整理総括表に集約して総合評価を行ない、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきなどは、申し送りなどで、全職員に伝達して介護実践にいかしている。介護計画は、介護記録を元に支援内容を評価、検討し、介護計画の修正をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームがある志袋団地内に自宅がある利用者様が、日中は自宅で過ごす取り組みも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一生懸命気持ちを汲み、叶えられるよう努力・工夫している現場の姿はよく感じている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員が、定期的な訪問診療を受けている。主治医からは、一人ひとりの健康状態について、適格な助言を頂いている。	全員が入居前のかかりつけ医に通院している。かかりつけ医は24時間対応であり、月1回定期訪問診療がある。歯科医も口腔ケアに訪問治療している。また他科への通院は事業所で対応しており、受診結果は電話・文書等で家族に報告し、適切な医療支援体制は整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当グループホームに看護職員はいない。利用者様の健康状態については、主治医と細かく連絡を取り合い指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院に入院された利用者には、入院先の医療機関との連携を密にして、退院後の生活等について、病院関係者と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	人生の最終章(看取り、終末期)における利用者様、ご家族の意思確認は、入居の契約締結時から、折を見て行っている。その時が来た際には、面談にてご家族の意思を確認している。	看取りの支援について、事前確認書で入居時に家族に説明し同意を得ており、これまでに看取り経験はある。延命ではなく、状況の変化に応じてその都度、本人に取って何が最良かを探りながら、家族を始め関係者との十分な協議をしながら見出すようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、職員は、主治医の指示に従って動くようにしている。入居者一人ひとりの『急変時対応マニュアル』が、職員が見やすい場所に設置してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は、実施していない。	年1回、消防署指導により火災想定通報・避難訓練をしている。避難場所は近くの集会場と決めてあり、自治会との協力体制はできている。備蓄は乾パン・水、非常用品は防災頭巾・サーチライト・カセットコンロ等を用意している。今後は消火訓練・夜間想定訓練・救命等も検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した介護実践を行うことが出来るよう、努力している。	利用者との会話はその時の雰囲気に応じて言葉使いに注意している。呼称はさん付けにしているが、家族の同意を得てちゃん付けで呼ぶ方もいる。居室・浴室・トイレは常に閉まっている事を確認し、外部には利用者の事は一切話さないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が、遠慮せずに自分の想いを話すことが出来るよう努力・工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりが、自分のペースで暮らせるよう心がけているが、業務にかまけて、職員の都合でケアをしてしまうこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要に応じて、着替え、身だしなみの介助をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、6名の方が一つの食卓を囲み、家庭的な雰囲気で召し上がって頂いている。食卓を拭く、後片付けをするなど、各自の出来る範囲で手伝ってもらっている。	食事は3食共、職員が交替で食材を買出し・調理している。毎月、行事食が用意され季節食の楽しみとなっている。少人数6名のため、家族のような食事の雰囲気があり、楽しい食卓風景となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者に合った食事形態の食事を提供し、可能な限り自力摂取を促している。食事・水分摂取量は、介護日誌に記録して、職員全員が把握出来るようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自主的に食後の歯磨きをする人、口腔ケアの声かけ、誘導の必要な人、それぞれにあった支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	以前、トイレトペーパーを居室に持ち帰る利用者様がいた。理由を聞くとお漏らしをしないか心配とのこと。職員は、本人の気持ちを受け止め、排泄後の後始末を本人と一緒にすることで安心され、トイレトペーパーを持ち込む行為はなくなった。	利用者の3分の2がほぼ自立しており、トイレで済ませているが誘導・見守りを行なっている。リハビリパンツ、おむつの方1名ずつで、夜間はポータブルトイレを使用する方もいる。見守りの中で残された機能が充分発揮できるよう支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪問診療に来ていただいている主治医の指示のもとで、排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に3回は入浴している。	入浴は週3回、午前と午後に分けて実施している。柚子湯・菖蒲湯等の季節湯もあり、利用者2人はシャワー浴・足浴・清拭を利用し、他の方は備え付けた大きな浴槽でゆったりと湯舟につかり入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冬場、希望者に湯たんぽを準備するなど、一人ひとりにあった支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療に来ていただいている主治医に指導して頂き、服薬管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室で折り紙をする人、暖くなれば庭の草取りをする人など、利用者様一人ひとりの特技や希望に沿った活動が出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	グループホームがある志袋団地内に自宅がある利用者様が、自宅を見に行きたいという希望があれば、職員が同行して、自宅で用事をされることもある。	コロナ禍の現状であるが、近隣への散歩、庭での花火大会、車窓の花見ドライブで梅・桜・水仙見に出している。正月に実家へ外泊したり、時々、自宅に帰る方もいる。主治医の受診、家族と彼岸にお墓参りに行く等、出来るだけ外気浴を楽しめる支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の中には、お小遣いを自分で管理されている人もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今まで通りの家族関係、友人・知人との関係が続くように、電話、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、利用者が不快や混乱を招くことがないように配慮している。食卓には、季節の花を飾るなど、季節を感じて頂ける空間作りをしている。	リビングと厨房は対面式であり、少人数6名の利用者が調理を見ながら、椅子に座って待つ様子は家族の団欒を感じられる。壁・廊下・玄関には行事の写真、季節の貼り絵等が飾ってある。浴室は2年前にリフォームし、大きな浴槽が設置してある。掃除は職員が行ない清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓を囲んで談笑をする人、洗濯物をたたむ人、テレビを観ている人など、同じホールで利用者一人ひとりの時間を過ごしている。職員はキッチンなどから、見守っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者様の愛用品を備えている。転倒、転落事故の防止に配慮しながら、本人の思いを尊重した居室のレイアウトをしている。	ベッド・エアコン・整理ダンスは事業所で設置、一人一人が普段使い慣れたもの等を持ち込み、整理整頓されたすっきりとした居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の名札、迷わずトイレまでの矢印を貼るなど、利用者様が迷わない工夫をしている。職員は利用者の見守りを行い、自由な行動と安全の確保に努めている。		